

【史料紹介】

17世紀フランス王国と小アンティル諸島

—初期植民の記録—

大 峰 真 理

はじめに

近世フランス王国は、アウクスブルク同盟戦争（1688年～）を終結させたレイスウェイク条約（1697年）によってエスパニョラ島の西側三分の一を獲得した。それ以後この地はサン＝ドマングと呼ばれ、王国はさとうきび栽培のためにその肥沃な土地を存分に活用した。領有開始からおよそ10年後、サン＝ドマングでの粗糖生産量はブラジル地域でのそれを上回り、18世紀半ばに西半球で消費される粗糖の四分の三はサン＝ドマング産で占められた、と推算されている¹。こうしてサン＝ドマングは18世紀大西洋貿易の「発電機²」になり、フランスの経済発展を牽引する。

ところで、本稿の主題はフランス王国によるサン＝ドマング経営それ自体ではない。筆者の問題関心は「サン＝ドマングにおける粗糖生産の急成長は何によって担保されたのか」を明らかにすることであり、「フランスはすでに別の場所で粗糖生産のノウハウを確立し、領有直後からその技術をサン＝ドマングに適用したのではないか」という仮説を裏付けるところにある。拙稿「17世紀フランスの初期植民会社と小アンティル諸島」（2022年発表）は、この仮説に答えるための最初の試みだった³。筆者は、拙稿を執筆するためにフランス海外県の文書館—グアドループ県とマルティニク県—が所蔵する史料やフランス国立公文書館分館—海外領文書館—が所蔵する特権会社関連文書群の一部を閲覧し⁴、アメリカ諸島会社による植民の歴史を考察した。

アメリカ諸島会社は、1635年2月12日に裁可された勅許状によって設立された王立会社であり⁵、小アンティル諸島（サン＝クリストフ島、グアドループ島、マルティニク島）における植民・開墾・さとうきび栽培と粗糖生

【地図1 フランス領サン＝ドマングとその周辺】



Source gallica.bnf.fr / Collections BnF

出典：Guillaume Delisle, *Carte de l'isle de Saint Domingue* (1725).

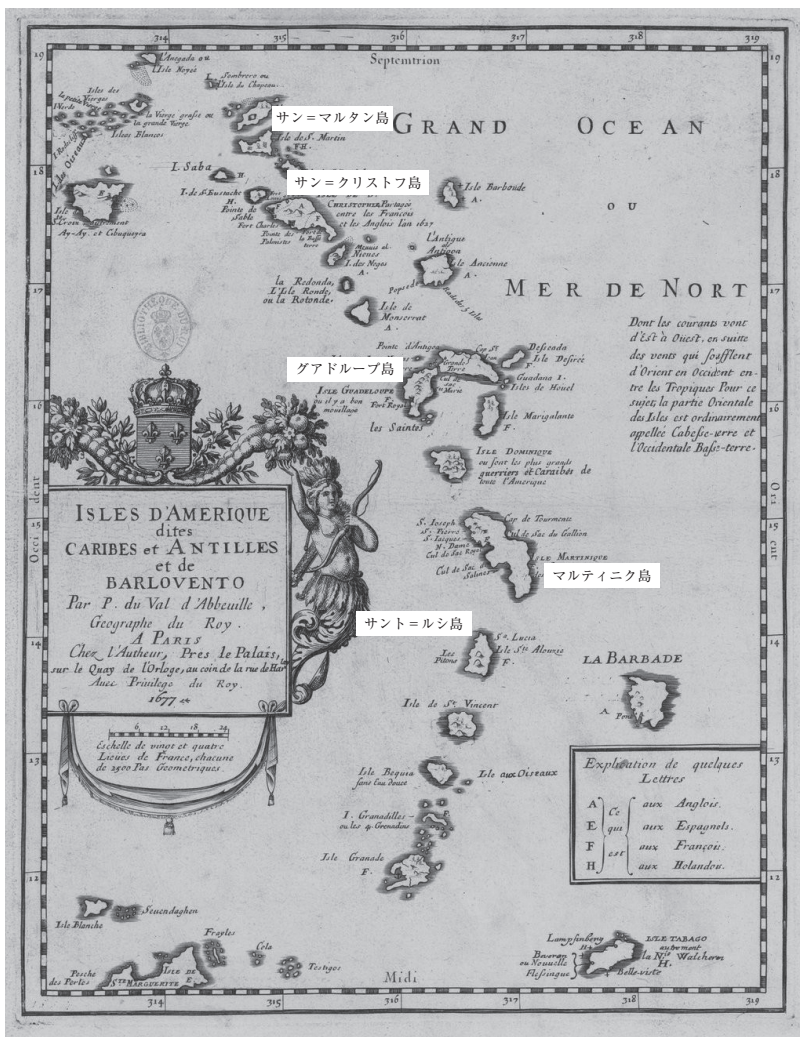
フランス国立図書館デジタルサイトGallica

<https://gallica.bnf.fr/ark:/12148/btv1b59726379/12.item.r=carte%20de%20l'ile%20de%20Saint-Domingue>

この地図は、海軍水路測量部門が編纂したサン＝ドマングに関する146図のうちの1点。

産を担った。勅許状にもとづいて設立されたこの会社は、カリブ海域の植民を担う王国史上初めての特権会社だった。活動対象地域である三島のうち、グアドループ島とマルティニク島は17世紀後半まで粗糖生産の中心地としてよく知られている⁶。一方、サン＝クリストフ島の歴史は、二島における植民活動の前史を形づくった島として紹介されるにとどまる。なぜならば、サン＝クリストフ島は極端に小さく（島の面積は約170平方キロメートル、グアドループ島の約八分の一）、開墾可能な土地が狭かったので粗糖生産の中心地にはなり得なかったからである。しかし、フランス王国とカリブ海諸

【地図2 小アンティル諸島】



Source gallica.bnf.fr / Bibliothèque nationale de France

出典：Pierre Duval, *Isle d'Amérique dites Caribes et de Barlovento* (1677).

フランス国立図書館デジタルサイト Gallica

<https://gallica.bnf.fr/ark:/12148/btv1b84947859.r=Isle%20d%27Amerique%20dites%20Caribes?rk=21459:2=>

島との関係に関心をもち、特権会社の歴史を再構成しようと試みる研究者は、サン＝クリストフ島の存在を無視することはできない。なぜならば、史上初の特権会社-アメリカ諸島会社-の設立に先立って、王国政府の中心人物がサン＝クリストフ島の経営に強い関心を示した痕跡が一次史料の中に記されているからである。

サン＝クリストフ会社と修道会士による記録

国王ルイ13世(1601-1643、在位1610-1643)の首席国務卿リシュリュ(1585-1642年、在職1624-42年)は、自らが筆頭出資者となって1626年「サン＝クリストフ会社に関わる名士協会 Association des seigneurs de la Compagnie de Saint-Christophe」を結成した。これは前述したアメリカ諸島会社設立よりも9年早い。しばしば「サン＝クリストフ会社」と呼ばれる同名士協会の主要な結成メンバーは、首席国務卿とノルマンディ地方出身の二人の船乗り-ピエール・ブラン・デナムビュック (Pierre Belain d'Esnambug) とユルバン・デュ・ロワセ (Urbain du Roissey) -である。1620年代、二人は共同で船を準備し船団を組み、カリブ海域でスペイン船への襲撃を繰り返した。彼らのようないわゆる「流れ者 (略奪者)」-フランス語ではフリビュスティエflibustierと呼ばれる-、あるいは「海賊」とみなされる人物についての公文書はそれほど多くない⁷。一方、同じ時期にカリブ海諸島に滞在した修道会士たちは、「初めてのヨーロッパ出身者」「初めての王国出身者」と表現しながら、航海者たちに関する記録を書き残している。ドミニコ会士ジャン＝バティスト・デュ・テルトル (Jean-Baptiste Du Tertre 1610-87年) とイエズス会士ジャック・ブトン (Jacques Bouton 1592-1658年) が記した記録は、その代表である⁸。

★Jean-Baptiste Du Tertre, *Histoire générale des îles Saint-Christophe, de la Guadeloupe, de la Martinique et autres de l'Amérique*, Paris, 1654.

★Jacques Bouton, *Relation de l'établissement des Français depuis l'an 1635 en l'île de la Martinique*, Paris, 1640.

デュ・テルトルによる記録は、文字通り小アンティル諸島の通史であり、

サン＝クリストフ島・グアドループ島・マルティニク島における自らの経験と観察の集大成である。一方、ブトンによるそれは、1635年（アメリカ諸島会社設立の年）以降のマルティニク島におけるフランス臣民の活動の記録である。いずれの著作も、17世紀カリブ海諸島とフランス王国との関係の歴史を証言する第一級の一次史料であり、これまでグアドループ島とマルティニク島の歴史を専門とする研究者たちによって閲覧・読解されてきた。

現在、フランス国立図書館はこれら二つの史料をデジタルサイトBNF Gallica上で全文公開している。著者も前述の拙稿を執筆するにあたって、先達にならない、修道会士による記録をオンライン上で閲覧したが、通読には至らず部分的な読解と分析にとどまった。とくに、アメリカ諸島会社設立に先立つ時期のカリブ海世界の様子を再構成するためには、デュ・テルトルによる記録を精読することが不可欠であると当時から自覚していたが、脱稿までにそれを果たすことはできなかった。そこで本稿では、*Histoire générale des îles Saint-Christophe, de la Guadeloupe, de la Martinique et autres de l'Amérique* の精読を準備するために、この記録の伝来と概要を整理することにした。

史料：デュ・テルトル著『サン＝クリストフ島、グアドループ島、マルティニク島およびその他島々の概説史』

1494年1月にエスパニョラ島で最初のミサが執り行われてから以降、16世紀初頭の大アンティル諸島（エスパニョラ島、キューバ島、ジャマイカ島、プエルトリコ島）にはフランチェスコ会士とドミニコ会士が次々と到達して宣教活動を展開し、彼らは自身の日々の経験や現地で見聞きしたことを書き残した。それらのうちもっともよく知られている記録は、1502年スペイン総督に同行してエスパニョラ島に上陸したドミニコ会士バルトロメ・デ・ラス・カサス（1484-1566）によるものであり、彼はキューバ島やメキシコにおける布教の過程で見聞きした現状を記録した¹⁰。16世紀半ばになると、複数の修道会がメキシコ地域で活動を展開し、各管区の受洗者記録を作成すると同時にそれらを修道会総参事会あてに提出した。このようにして集約さ

【図1 Du Tertre 1654年出版本 第一葉】

**HISTOIRE
GENERALE,
DES ISLES
DE S. CHRISTOPHE,
DE LA GUADELOUPE,
DE LA MARTINIQUE,
ET AUTRES
DANS L'AMERIQUE.**

Où l'on verra l'establissement des Colonies Françoises, dans ces Isles; leurs guerres Civiles & Estrangeres, & tout ce qui se passe dans les voyages & retours des Indes.

Comme aussi plusieurs belles particularitez des Antilles de l'Amérique:
Une description generale de l'Isle de la Guadeloupe: de tous ses Mineraux, de ses Pierres, de ses Rivières, Fontaines & Estangs: & de toutes ses Plantes.

De plus, la description de tous les Animaux de la Mer, de l'Air, & de la Terre: & un Traité fort ample des Mœurs des Sauvages du pays, de l'Etat de la Colonie Françoisse, & des Esclaves, tant Noirs, que Sauvages.

Par le R. P. Jean Baptiste DU TERTRE, Religieux de l'Ordre des FF. Prêcheurs, du Nouriat du Faubourg Saint Germain de Paris, Missionnaire Apostolique dans l'Amérique.



A PARIS,
Chez **JACQUES LANGLOIS**, Imprimeur Ordinaire du Roy,
Au Mont de sainte Genevieve, vis à vis la Fontaine.
Et **EMMANUEL LANGLOIS**, dans la grand' Salle du Palais,
à la Reyné de Paix.

M. D C. L V.
Avec Privilège du Roy, & Approbation des Supérieurs.

Source gallica.bnf.fr / Bibliothèque nationale de France

出典：Jean-Baptiste Du Tertre, *Histoire Générale des îles Saint-Christophe, de la Guadeloupe, de la Martinique et autres de l'Amérique*, Paris, 1654.

フランス国立図書館デジタルサイト Gallica

<https://gallica.bnf.fr/ark:/12148/bpt6k114023b?rk=214592>

れてきた一次史料は体系的に所蔵保管されているので¹¹、国内外の研究者たちはこれらを読解して分析・考察し、スペイン領アメリカの歴史展開についての実証的成果を蓄積してきた¹²。

一方、フランス領カリブ海諸島—とりわけ小アンティル諸島—に関する修道会士記録は、日本国内ではこれまで注目されず、紹介されることもなかった。しかし、アメリカ産の貴金属を求めてヨーロッパ諸都市を出港した船団のほとんどが小アンティル諸島を抜けて大西洋からカリブ海域に入ったことを知れば、この弧状に連なる島々とヨーロッパ諸勢力との関係の歴史を跡づけることが環大西洋世界の歴史を理解するために欠かせないと判断できる。

【地図3 17世紀後半のカリブ海域と島々】



Source gallica.bnf.fr / Bibliothèque nationale et universitaire de Strasbourg

出典：Vincenzo Coronelli, Archipelague du Mexique où sont les îles de Cuba espagnole, Jamique, etc. Avec les isles Lucayes, et les isles Caribes, connues sous le nom d'Antilles (1688).

フランス国立図書館デジタルサイトGallica

<https://gallica.bnf.fr/ark:/12148/brv1b85961942?rk=42918:4>

17世紀フランス王国が植民対象とした小アンティル諸島に関する歴史史料を紹介する本稿の学術的意義はここにある。

デュ・テルトル (1610-1687) は、英仏海峡に面した港町カレCalaisで医者の子として生まれ、ジャックJacquesと名付けられた。23歳 (1633年) の時にホラント (オランダ北部七州の一つ、中心都市はアムステルダム) に移動し、海軍船舶に乗船してグリーンランド遠征にも参加したが、その後、陸上職に異動し2年後に除隊した。その直後にデュ・テルトルは、説教修道会に加わり、ジャン＝バティスト・カレJean-Baptiste Carré神父の指導・庇護下におかれ、その名Jean-Baptisteを与えられて修道会士となった¹³。

1640年、デュ・テルトル (30歳) はアンティル諸島宣教師団に選出された。推薦者はカレ神父であり、デュ・テルトルの「オランダ船」乗船経験が強力な選出理由の一つになった、と推察されている¹⁴。たしかにデュ・テルトルは、1658年までにフランス～小アンティル諸島間を計5回往復しており、歴代の宣教師団とフランス王権とのあいだで通信使の役割を果たした。彼はその滞在期間中もっぱらグアドループ島に拠点をのこしたが、サン＝クリストフ島、サン＝マルタン島、マルティニク島、サント＝ルシ島を定期的に訪れており、それぞれの土地で見聞きしたことを書き記した。

1654年にパリで印刷発行された*Histoire générale des îles Saint-Christophe, de la Guadeloupe, de la Martinique et autres de l'Amérique* は、三点が残存し保管されている。そのうちの二点はマザラン図書館Bibliothèque Mazarine (パリ) が所蔵するマルセル＝シャティヨン蔵書Fonds Marcel-Châtillonの一部をなす。残りの一点はフランス国立図書館Bibliothèque Nationale de Franceに所蔵され、2007年10月にデジタル化されオンライン公開された¹⁵。三点のうちマザラン図書館所蔵のものが「完全版」と評価されており、全781葉で構成され、その中にはデュ・テルトルの手による26点の植物画と粗糖製造のための道具画が含まれている¹⁶。しかし、このマザラン図書館本は貴重図書として分類され、一般の閲覧は許可されずデジタル化の対象にもなっていない。フランス国立図書館本は、この「完全版」と対照させてみれば最後の二章が欠落しているので全体で514葉しかなく、また図版も一部しか収められていない。しかし閲覧環境を考慮す

れば、17世紀半ばフランス王国による小アンティル諸島植民の歴史を再構成するためには、まずこのデジタル版を精読することが肝要である。

フランス国立図書館本は、紙媒体では哲学・歴史・人類科学に分類され、番号4-Lk12-11で保管され、デジタル版ではark:/12148/bpt6k114023bで分類・公開されている。以下、目次を試訳する。

【第一部】

- 第一章 サン＝クリストフ島におけるフランス植民のはじまり（1）
- 第二章 グアドループ島におけるフランス活動拠点（27）
- 第三章 マルティニク島およびその他の島におけるフランスの活動拠点（68）
- 第四章 フランスからアメリカへ向かう航海で特筆すべきすべてのことがらについて（75）
 - 第一節 アメリカへ向かう私のすべての旅、そしてその中でより興味深かったことについて
 - 第二節 アメリカからフランスへの帰路

【第二部】

その一

- 第一章 気温（99）
- 第二章 季節の多様さ（104）
- 第三章 ざわめく天気（107）
- 第四章 潮の満ち引き（112）

その二

- 第一章 グアドループ島について（114）
- 第二章 鋤脈（125）
- 第三章 宝石（130）
- 第四章 川、急流、泉、沼（135）

【第三部】

その一 植物

- 第一章 果実をつけない植物（145）
- 第二章 果実をつける植物（191）

その二 樹木

第一章 原生の木々、果実をつけない木々 (206)

第二章 果実をつける木々 (238)

【第四部】

その一 魚

第一章 海の魚 (259)

第二章 川魚 (291)

その二 空を飛ぶ動物

第一章 鳥 (294)

第二章 蜂 (321)

その三 地上の動物

第一章 四本足で移動する動物 (332)

第二章 は虫類、両生類、害虫 (347)

【第五部】

第一章 アンティル諸島に住む人々 (393)

第二章 フランスからきた人々 (466)

第三章 奴隷 (473)

1654年版は五部構成である。第一部ではサン＝クリストフ島、グアドループ島、マルティニク島の様子を概観するとともに、デュ・テルトル自身が経験したフランス～アンティル諸島間の複数の航海について、そしてグアドループ島との行き来について叙述している。第二部では、前半で気候と気象について詳述し、後半ではおもにグアドループ島がもたらす豊かさを紹介する。第三部は植物についての記録であり、果実をつけない32種類の植生と果実をつける9種類について詳しく記録する。また42種類の樹木についても記されている。第四部では動物(16種類の魚、17種類の鳥、6種類の昆虫、36種類の地上動物)について実に詳細な描写が示される。そして第五部では現地の人々についての記述が展開され、「誕生から死までどのように暮らすのか」が食事、交換、戦い、そして信仰など12の視点から描写される。現地の自然環境と住民の生活に関する描写がきわめて詳細で豊かであ

るのに対して、フランス出身者と奴隷について割かれる紙幅は小さく、デュ・テルトルの好奇心と観察眼がもっぱら現地社会に向かっていたことがよくわかる。

前述した通り、17世紀フランス王国によるカリブ海諸島植民の歴史を再構成するためには、デュ・テルトルによる記録の全体を通読しなければならないが、なかでもフランス臣民が初めて上陸し定着したであろうサン＝クリストフ島の様子を知るためには、1654年版第一部第一章の精読が重要である。その第4葉には1625年に船乗りデナムビュックがフランスの港町ディエップ（Dieppe）を出港したことが記されている。デュ・テルトルによれば、彼は「アメリカに來たフランス出身者のうち、もっとも大きな財を形成した紳士¹⁷」と評されている。デナムビュックが率いた船団は、ケイマン諸島沖合に到着した直後にスペイン船団から襲撃を受け、乗組員の半数近くを失いながらサン＝クリストフ島に接岸した。デュ・テルトルの記録が正しいならば、「その際、すでに同島には25人から30人のフランス出身者がおり、デナムビュックは彼らとともにこののち7～8か月のあいだ一緒に暮らし¹⁸」ている。また、デナムビュックが「フランスから運んできた物資を彼らに分け与え、たばこ栽培にも参加し、彼らの父のように立ち振る舞った」様子も記録されている¹⁹。第7葉に目を転じれば、デナムビュックとリシュリュ首席国務卿が本国で会談したことが叙述され、1626年10月31日の「サン＝クリストフ会社」結成にいたる過程が記されている²⁰。このあと第27葉まで、「サン＝クリストフ会社」による島の経営状況が記録されるが、とりわけ、イングランド出身者との対立と協調、ユダヤ教徒の介在、フランス出身者の離散と再集結、オランダ船との商取引の様子が生き生きと描かれる²¹。本稿に第一部第一章の全試訳を掲載することはしないが、ここには、1620年代後半から30年代前半にかけて小アンティル諸島海域で展開されたヨーロッパ諸勢力間の交渉・共存・競合が描写され、初期植民をめぐる当事者たちの思惑の重なりが読み取れるのである。

一方、1640年現地に派遣されたデュ・テルトルはどのようにして1620年代の様子を知ったのかという疑問が残る。デュ・テルトルは、現地に到着してから聞き取り調査を行ったのだろうか？ そうだとすれば、相手は誰だった

のか？または、すでに書き残された何らかの資料を参照しながら叙述したのか？そうだとすれば、記録を残していたのは誰だったのか？記録者（たち）は、誰のためにどのような目的で書き録ったのか？これらの疑問に対する答えを見出すためには、1654年版の冒頭に付された「バリ高等法院長への献辞」と「読者へ」を正確に読む必要がある。前者（「献辞」）は、この歴史史料が権力や権威とどのように結びつくのか、また後者は、デュ・テルトルが誰を読者として想定していたのか、を教えてくれるだろう。今後は、514葉におよぶ史料を精読する。その成果は、筆者の問題関心「サン＝ドマングにおける粗糖生産の急成長は何によって担保されたのか」に答えを与えてくれるはずである。

注

- 1 Herbert S. Klein, *African Slavery in Latin America and the Caribbean*, Oxford, 1986, pp. 56-58.
- 2 Geggus (ed.), *The Impact of the Haitian Revolution in the Atlantic World*, University of South Carolina Press, 2001, pp. ix-xvi; ゲッグスの論考については浜忠雄「ハイチ革命再考」『年報新人文』07号（2010年）、北海学園大学、8-78頁が詳しく紹介している。
- 3 大峰真理「17世紀フランスの初期植民会社と小アンティル諸島」『岩波講座世界歴史14 南北アメリカ大陸～17世紀』2022年、岩波書店、239-258頁。
- 4 史料は<http://www.archivesguadeloupe.fr>と<https://www.patrimoines-martinique.org>で検索でき、一部はテキストの閲覧も可能である。また、Archives Nationales d'Outre-Mer (ANOM) は17世紀に設立された諸特権会社文書を所蔵する。
- 5 Archives Nationales d'Outre-Mer (以下、ANOMと略す) F2A13:12/2/1635.
- 6 Liliane Crété, *La traite des nègres sous l'Ancien Régime*, Paris, 1998, p. 14.
- 7 Eric Roulet, “<Mousquets, piques et canons…>. La défense des Antilles françaises au temps de la Compagnie des îles (1626-1648)” dans *Défense et colonies dans le monde atlantique XVe-XXe siècle*, sous la direction de David Plouviez, Rennes, 2014, p. 201-217; Jean-Christophe Temdaoui,

- “L’espace colonial caraïbe de la Couronne de France (1625-1791” (mémoire de licence, 2017) publié sur le site HAL open science, 2020, <https://shs.hal.science/halshsr-03090645>. など、フランス王国によるカリブ海諸島植民史研究は2010年代半ばから本格化している。そのいずれもが、修道会士による記録を一次史料として調査・閲覧している。
- 8 Jean-Baptiste Du Tertre, *Histoire générale des îles Saint-Christophe, de la Guadeloupe, de la Martinique et autres de l’Amérique*, Paris, 1654; Id., *Histoire Générale des Antilles habitées par les Français*, Paris, 1667-1671; Jacques Bouton, *Relation de l’établissement des Français depuis l’an 1635 en l’île de la Martinique*, Paris, 1640.
 - 9 佐藤彰一『宣教のヨーロッパ 大航海時代のイエズス会と托鉢修道会』中公新書、2018年、149頁。
 - 10 Bartolomé de las Casas, *Brevísima relación de la destrucción de las Indias*, 1552; (日本語訳) ラス・カサス著/染田秀藤訳『インディアスの破壊についての簡潔な報告』岩波書店、1976年、改訳版2013年。
 - 11 佐藤彰一、前掲書、150-153頁。
 - 12 ここでは、専門分野ごとの研究成果を羅列しないが、その全体像と現在の到達点については、安村直己「南北アメリカ大陸から見た世界史」『岩波講座世界歴史14 南北アメリカ大陸～17世紀』2022年、岩波書店、3-65頁に詳しい紹介がある。
 - 13 Christina Kullberg, *Lire l’Histoire Générale des Antilles de J-B. Du Tertre*, Leiden/Boston, 2021, p. 21.
 - 14 André Chevillard, *Les Dessins de son Eminence de Richelieu pour l’Amérique*, Basse-Terre (Guadeloupe), 1973, p. 44.
 - 15 フランス国立図書館デジタルサイトGallicaにおけるURLは次の通り。
<https://gallica.bnf.fr/ark:/12148/bpt6k114023b.r=Jean%20Baptiste%20du%20Tertre?rk=21459;2#> (2024. 10. 14. 閲覧)
 - 16 Christina Kullberg, *op.cit.*, p. 23.
 - 17 Jean-Baptiste Du Tertre, *Histoire générale des îles Saint-Christophe, op. cit.*, feuille no. 4.
 - 18 *Ibid.*, feuille no. 5.
 - 19 *Ibid.*, feuilles no. 5-6.

20 *Ibid.*, feuille no. 7.

21 *Ibid.*, feuilles no. 7-27.